

うおーみんぐ

NO.23 新春

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。

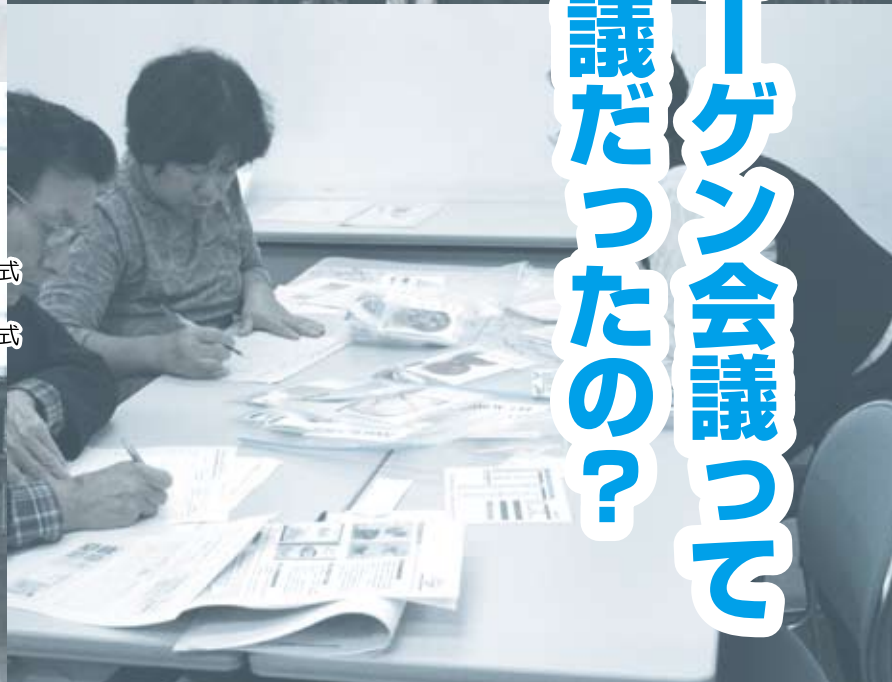
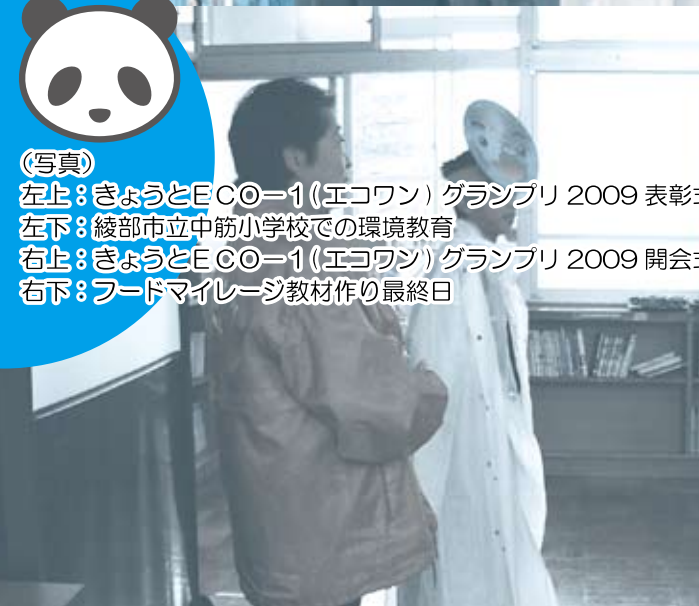
実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信



(写真)

左上：きょうとECO-1(エコワン) グランプリ 2009 表彰式
左下：綾部市立中筋小学校での環境教育
右上：きょうとECO-1(エコワン) グランプリ 2009 開会式
右下：フードマイレージ教材作り最終日



特集
コペンハーゲン会議って
どんな会議だったの？



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

コラム COP15 滞在記 in コペンハーゲン

夏休み省エネチャレンジのこれまでを振り返りました
きょうとECO-1(エコワン) グランプリ 2009 決勝大会報告

京都環境フェスティバル 2009 レポート

活動レポート

お知らせ

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

特集

コペンハーゲン会議って どんな会議だったの？

はじめに

2009年12月7日から18日にかけて国連気候変動枠組条約第15回締約国会合（COP15）、および京都議定書第5回締約国会議（COP/MOP5）がコペンハーゲンで開催されました。京都議定書で決められた第一約束期間以降各国がどのように取り組むかを決める重要な会議と言われていましたが、どのような結果となったのでしょうか？

会議に参加された気候ネットワークの川阪京子さんにお聞きしました。

12 月末、大雪のコペンハーゲンから帰国しました。KLM 航空のハブ空港であるアムステルダムスキポール空港が閉鎖になったため空港は大混乱。私も経由地のパリから大阪に帰る便の座席がキャンセル待ちとなったままパリに到着。最後の1席をなんとかものにし、予定通り帰国しました。

さ て、今回私が参加したのは、国連の地球温暖化防止に関する会議（COP15）で、12月7日から18日までコペンハーゲンで開催されていました。2013年以後、世界全体でどのようにこの問題に対応していくのかを定めた新しいルール（国際的な法律）を決める、いわば地球の、私たちの未来を決める重要な会議でした。

そ のため、政府代表団、NGO、メディア関係者合わせて参加登録者数は過去最高の65,000人。アメリカのオバマ大統領、日本の鳩山首相、中国の温家宝総理など20カ国近くの首脳も集まるなど、世界中から注目が集まりました。

世 界全体の温室効果ガスの排出量を削減に転じさせていくための、2050年の世界全体の削減目標と2020年の特に先進国全体の

削減目標と個別の目標、さらに、中国やインドなど主要な途上国が行う個別の削減対策を決めることが目指されました。最後はもつれにもつれ、19日の午後15時30分ようやく終了。かろうじて20カ国ほどの首脳たちが集まって「コペンハーゲンアコード（合意）」というものが作られました。しかしその内容は、長期の削減目標なども示されず、世界全体の排出量を削減に向かわせることを確保していない非常に弱いものになってしまいました。また、たった20カ国だけで作ったというプロセスの不透明さが他の国の不信感を呼び、190カ国全体の合意が得られず、結局この合意はテイクノート（参考にする）という形にとどまりました。

目 立った成果がなく、さらに次どうするかという具体的なスケジュールも決められないまま終了したことは非常に残念です。しかし、この問題が世界の首脳たちが話し合うまでの課題となったことは無視できないことです。来年、メキシコで開催される会議で再度話し合いが行われる見込みです。また、温暖化の問題は緊急を要する問題であることに変わりはなく、国内で更なる対策を引き続き進めていかなければなりません。



未来の地球の様子を知る宇宙人が、日本政府代表団を訪ね、コペンハーゲンで合意をするように求めるパフォーマンスの様子

コラム：NGOの参加が問題に

消防法で定められた会場の最大収容人数は15,000人。そこに65,000人が登録するという異常な事態。さらに、首脳たちのセキュリティ確保や会場の収容人数の関係で、NGOの参加が非常に問題となりました。会場に入るためのIDをもらうのに雪の中10時間も待たなければならなかったり、会議を傍聴できるNGOの数が500にまで減らされたりし、会議の意思決定プロセスの透明性への市民参加が確保されない状態となってしまいました。

た。日本のNGOから会場に最後まで参加できたのはたった4名。私も最後はテレビやウェブキャストをみるしかなく、本当に会議の行方を見守るしかありませんでした。歴史的に一番重要な会議で、また、環境問題の意思決定にNGOや市民参加の確保を定めたオフツ条約ができたデンマークで、このような事態が起こったのは非常に残念です。

（気候ネットワーク：川阪京子）

京都生協の代表としてCOP15に参加された吉村由喜子さん（宇治市在住の推進員）に、当日を振り返っての感想をいただきました！

コラム

COP15 滞在記 in コペンハーゲン



約 3万人があふれるCOP15の会場に着いたのは12月11日のこと。この日も会議が中断し、難航している様子が人々の硬い表情から伝わってきます。ですが、NGOのブースは立場の違いを越えて友好的。着ぐるみのクマと遊んだり、手作りの品々をプレゼントしたり。

12 日のパレードでは、京都からのメッセージを横断幕を広げて発信!! 報道陣のカメラが個々の"声"を撮り続けます。行進中は、OJT研修（京都府センター主催の推進員を対象とした研修）で作ったしろくまが一緒です。幼児から警官まで手を振ってくれました。3時半には日の暮れるデンマークなので後半の1時間は増し加わる寒さと足の痛みとの闘いです。国会議事堂から会場のベラセンターまでの6キロを歩き通すことができたのは、沿道のやさしい視線に支えられたから。翌日、宿泊地スウェーデンの新聞（SYDSVENSKAN）に写真が載っているのを見つけ、疲れが吹き飛ぶ思いでした。

今 回、会議は地球住民の願いとは程遠い終わり方をしました。今後、現状を純真な目で見つめ直し、地球のための協調を生み出すことができるのでしょうか。対立する利害でガチガチになった心をほぐすことができるのでしょうか。少しばかりの「光」を感じたのは、自主的に目標を掲げる機会が開かれている事。不満の残る数字を押しつけられるより、まだ意欲的になれるかも……。各国の意識の深さと勇気が試されるところです。見守り続けることと、土地や風土に合わせたエコ生活を続けることが私たちには求められていると思いました。

（吉村由喜子）



国会議事堂からベラセンターまでの地図

（出典：SYDSVENSKAN）



En japansk delegation i demonstrationståget.

FOTO: AP

COP15でのパレードに参加する吉村さんとしろくま
（出典：SYDSVENSKAN）



COP15でのパレードに参加した京都生協のメンバーの一部
（写真提供：京都生協）



COP15会場内の様子（写真提供：京都生協）



夏休み省エネチャレンジの



これまでを振り返りました

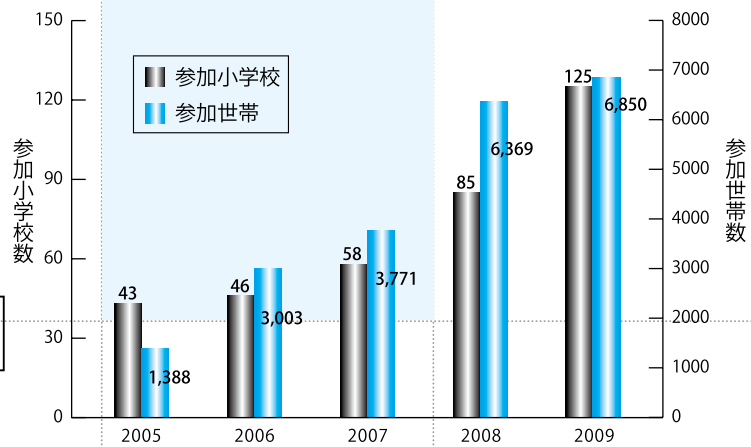
「夏休み省エネチャレンジ」※も今年度で7年目を迎えました。

初年度より2年間は京都府が実施していましたが、2005年よりセンターが京都府の委託を受けて、その実施を開始しました。参加小学校も参加世帯も徐々に増え、今年度は、参加小学校数125校、参加世帯数6,850となりました。

取り組みの結果、今年度はCO₂を約14トン削減！

※「夏休み省エネチャレンジ」

チェックシートを使って、夏休みの1週間家族で省エネを実践する取組。参加家族は「エコ親子」として認定されます（京都府知事認定）。



夏休み省エネチャレンジ参加小学校・参加世帯数

参加家族のコメント

保護者の方からのコメントを紹介します

保護者の方には、1週間の取り組みを終えての感想を自由に書いていただいています。

感想の中には、「エコチェックをはじめてから子どもが『今日、エコバッグ持ってきた？』と声をかけてくれるようになりました」「子ども達と一緒に考え、一緒に取り組むことで、お互いに注意しあったり声をかけたりして良い時間をもてました」といったコメントがあり、児童から大人へ、また大人から児童へ相互に省エネへの意識を高めることにつながっていることがわかります。

また、「毎日の生活の中で少し気をつければ省エネにつながるものがたくさんあるんだと改めて感じました」「エコチェックをはじめてから、エアコンの使い方や買い物に行く時の交通手段などを気にするようになりました。生活の仕方の一つ一つが省エネにつながることを身をもって知ったようです」といった感想からは、地球温暖化と生活とのつながりを認識するきっかけとなっていることがわかります。

さらに、「食事中的テレビをやめると家族の会話が増えた」といった感想もあり、省エネをきっかけに家族の交流が深まった、とても嬉しい報告もいただいています。

「夏休み省エネチャレンジ」前後の教育プログラムもスタート！

夏休みが終了してからも、省エネの取り組みを継続してもらうことはとても大切です。そこで夏休み省エネチャレンジ参加小学校を対象に、夏休み前後の学習会を始めています。

今年は綾部市立中筋小学校で、夏休み前には省エネの必要性について考える学習会を、夏休み後には省エネチャレンジの取り組み結果について振り返りを行なう学習会を実施しました。振り返り学習会では、児童が積極的に取り組めた省エネ、取り組めなかった省エネについてグループごとに意見交換を行い、綾部市の推進員さんから児童へアドバイスをいただきました。特にテレビを見る時間を減らす取り組みができていない児童が多かったことを受けて、推進員さんからは「私が小さい頃は本を毎日のように読んでいました。テレビを見るよりもずっと楽しい時間が過ごせますよ」とコメントをもらいました。

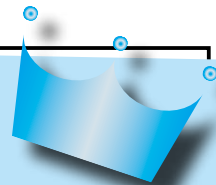
また、児童が削減する事のできた二酸化炭素の体積をゴミ袋を使って表し、児童の取り組みの結果を確認しました。児童からは「こんなにたくさん削減できたなんてすごい」といった驚きの声があり、今後も継続して省エネを実践していく必要性を認識するきっかけとなったと思います。

来年からは実施する小学校を徐々に増やしていきたいと考えています。



きょうとECO-1(エコワン)グランプリ 2009

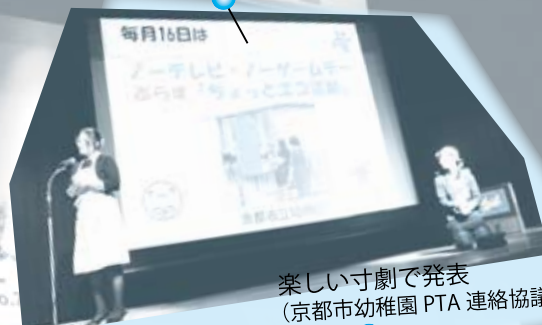
決勝大会報告



2009年12月6日(日)、京都市アバンティホールで、温暖化防止活動のコンテスト「きょうとECO-1グランプリ 2009」決勝大会を開催しました。

今年で3回目の本大会。6月から7月にかけて公募を行い、合計32件の応募から、10件が決勝に進出。(決勝進出取組10件は、前号6ページをご覧ください)

決勝大会は、寸劇あり、映像ありの充実したプレゼンテーションで盛り上がりました。各賞受賞団体は次のとおりです。



楽しい寸劇で発表
(京都市幼稚園 PTA 連絡協議会)



屋上緑化の模型が登場!
(京都府立桂高等学校)



緑のカーテンの成長を、
風船をふくらませて表現
(福知山市東野町自治会)



今年は長岡中央商店街振興組合が
全国大会へ!

グランプリ

長岡中央商店街(アゼリア通り)
エコチャレンジ~自作LEDラン
プでCO₂削減~
長岡中央商店街振興組合

準グランプリ

中学校から始まるグリーンニューディール
(私たち電気を創り出しています)
京都市立雲ヶ畑中学校
京都・西山森林整備の取り組み
西山森林整備推進協議会

特別賞

「環境研究開発賞 ジュニア部門」
小さな生物が地球を救う!~増加
する屋上緑化への警鐘!~
京都府立桂高等学校 TAFF「地
球を守る新技術の開発」研究班

特別賞

「環境研究開発賞 シニア部門」
電力の見える化での中小企業の
省エネ支援
NPO 法人 京都シニアベンチ
ャークラブ連合会(省エネ研究会)

会場賞 ※会場参加者の投票で決定

長岡中央商店街(アゼリア通り)エコチャレンジ
~自作LEDランプでCO₂削減~
長岡中央商店街振興組合

来場者数は257名で、翌7日にはNHKニュース、京都新聞、朝日新聞、毎日新聞で報道されました。グランプリを受賞した長岡中央商店街振興組合は、2月13日(土)、14日(日)に東京で開催される全国大会に出場します。

★ホームページではweb投票も行われています。ぜひ、応援の一票を!!

<http://www.kcfca.or.jp/eco1/>

推進員さんが
大活躍!!



京都環境フェスティバル 2009 レポート

2009年11月21日・22日に、京都環境フェスティバルが開催されました

今 年度の京都府センターのブースは、京都府地球温暖化防止活動推進員でOJT研修を受けた推進員の成果を披露してもらう場として、パフォーマンスコーナー、フードマイレージ啓発コーナーを設け、それぞれのコーナーで推進員にご活躍いただきました。

パ ーフォーマンスコーナーでは、「伝え方、話し方を学ぼう」というテーマでOJT研修を受けてきた推進員によって制作された人形劇を上演しました。「人形劇を見ませんか？」のプラカードを持ったパンダに誘われて、舞台の前に座った子どもたちに、「とっさん人形」や「白くまミーシャ」などの人形たちが、「地球温暖化を防ごう」と訴えました。

ま た、7月から11月にかけて実施したOJT研修で、受講生自らが作成したフードマイレージ教材を環境フェスティバルで初めてお披露目しました。教材である食材の写真を机に並べ、それぞれの食材についてのフードマイレージを考えてもらうクイズを実施しました。このコーナーは足を止める来場者が後を絶たず、クイズを通じて食料の地産地消が温暖化防止につながることをPRできました。

テ ーマゾーンでは、その一角で家庭の省エネ相談所を開催し、2日とも列が出来るほどの繁盛ぶりでした。このコーナーでもたくさんの推進員が真剣に相談にのり、大活躍されました。

写真（上から）：

- ・家庭の省エネ相談所
- ・推進員さんによる人形劇「白くまくんはどうなるの？」
- ・推進員さんによる人形劇「とっさんの地球温暖化防止物語」
- ・フードマイレージクイズコーナー

活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

2009.10.07~12.05

親子温暖化教室を実施しました

10月になると、運動会も済み、小学生を対象とした親子温暖化教室を実施することが多くなります。今年度は、10月7日に長岡京市立長岡第九小学校、11月9日に宇治市立木幡小学校、11月13日に京丹波町立竹野小学校、11月24日に木津川市立相楽台小学校、12月5日に宇治田原町公民館で学習会を実施しました。

11月9日に木幡小学校で行なった学習会は、さまざまな電気製品の消費電力を測定して、電気製品の使い方や選び方によって省エネができることを学ぶというもので、宇治市内の推進員と一緒に事前に何度も練習を行なって臨みました。事前の練習では、児童の前に立って説明する担当の推進員が実演を行い、担当の方の話し方や内容について他の推進員と意見を交換しました。またプログラム内容についての話し合いの際には、児童がより効果的に省エネを実践できるよう、測定する電気製品ができるだけ児童にとって身近にあるものを使う方がよいという意見が出され、測定の対象となる電気製品の種類を工夫するなどしました。

プログラム終了後には反省会を行い、今後は新しいプログラムを作成する動きもしていきたいという声もあり、推進員の熱心な意気込みがとても心強く感じられました。



推進員さんによる省エネの説明

2009.10.17

OJT研修 話し方・伝え方実践研修を開催！

10月17日（土）、綾部市でストップおんだん館のスタッフを講師にお招きしてOJT研修会を行ないました。ストップおんだん館作成の教材「食べ物をめぐる物語」を活用して、話し方・伝え方についてのノウハウを学びました。教材を使ったワークショップを体験した後、ワークショップを主催する側と受ける側とに分かれて実演を行い、お互いの良かった点悪かった点を評価しあいました。参加した推進員からは、「人にわかりやすく伝えるのが難しい」「受け手に興味を持ってもらえるように、導入は工夫するべきと感じた」などの意見が出ました。



ワークショップの様子

また、今回の研修会では、「食と温暖化」がサブテーマとなっており、スーパーのちらしを使って、旬や産地について考える作業を行ないました。チラシに掲載されている食品から旬をあてたり、また輸入されている食品を探したりするゲームをしたりと楽しんで学習できました。

このワークショップは、身近な教材を使ってグループで楽しく学習できるため、すでに推進員さんが地域での学習会で実践をされています。興味のある方は、お住まいの近くにあるスーパーのチラシを利用してぜひお試しください！またセンターで教材の貸し出しも行なっていますのでご入用の場合はお問い合わせください。

2009.10.17~11.7

地域のおまつりやイベントで家庭の省エネ相談所のサポートを行ないました

10月17日・18日には舞鶴市で10月25日には南丹市日吉町で、11月3日には同じく南丹市美山町で、11月7日には舞鶴市と綴喜郡井手町で地域のお祭り・イベントが開催され、どの地域も今年度から推進員が新たに家庭の省エネ相談所を開催するというので、センターからもお手伝いにつながりました。

今後も、さらに多くの地域で家庭の省エネ相談所を実施できるよう、相談所実施のための研修やサポートを行っていきます。



南丹市美山町での家庭の省エネ相談所

お知らせ

下記のセミナーを開催します。お気軽にご参加下さい。

1

町家でほっこり・冬の快適省エネ術

1月23日(土)

古き良き町家でも、寒い冬では我慢しなければならないこともあります。そこで、冬でも町家で快適に過ごすための、ちょっとした工夫やリフォームの方法を、住まい手の体験報告や施工者・専門家のお話から学びませんか。ぜひご参加ください。(要申込)

13:30-16:00

ひと・まち交流館
京都2階大会議室
(河原町通五条下がる東側)

2

今こそ知りたい!

太陽光発電基礎の基礎(仮)

「太陽光発電ってどれくらい発電するの?」
「本当に温暖化対策になるの?」
そんなギモンもすぐに解決!

2月20日(土)

13:30-15:30

福知山市民会館31号室
(京都府福知山市宇内記100番地)

2月21日(日)

10:00-12:00

宇治市男女共同参画
支援センター 会議室1
(京都府宇治市宇治里尻5-9)

2月21日(日)

14:30-16:30

中央生涯学習センター
(バンビオ1番館) 特別展示室
(長岡京市神足2丁目3番1号)

3

カーボンフットプリントセミナー ～京都企業の低炭素型製品開発を見える化する～

3月10日(水)

京都で作られるエコ製品、京都の資源を用いて作られるエコ製品は、実際にどれだけエコなのでしょう。セミナーでは、カーボンフットプリントの方法論を用いた具体的な事例が報告されます。また、カーボンフットプリントの方法論やこれを用いたラベリングを、地域でどのように展開することができるか、今後の可能性について議論を行います。

13:30-17:00

京都工業会館
4階講堂
(右京区西京極豆田町2番地)

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成22年新春号 平成22年1月発行(年4回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長：郡嶋 孝 運営委員長：浅岡 美恵

〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目283番4

TEL: 075-211-8895 FAX: 075-211-8896

URL: <http://www.kcfca.or.jp> E-mail: center@kcfca.or.jp

編集：伊東真吾 川手光春 木原浩貴 竹花由紀子 西澤浩美 洲上佑樹 吉川春菜

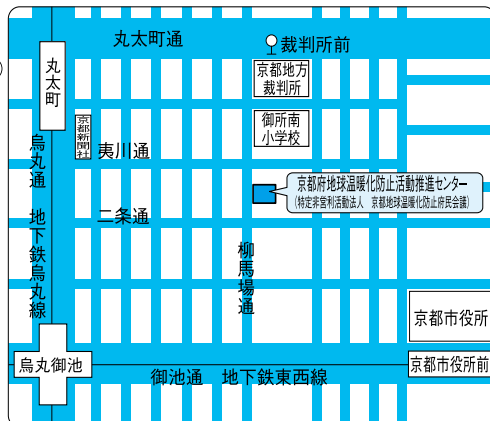
法人の活動を支えてくださる会員を募集しています!

年会費 正会員(個人): 2,000円 正会員(団体): 3,000円

準会員(個人): 2,000円 準会員(団体): 3,000円

賛助会員: 10,000円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率100%の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

